



週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第332号

2017年8月28日

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

東葉高速運賃値下げは市長の責任

「東葉勝田台から大手町まで310円?!」「東葉高速鉄道が東京メトロと経営統合したら、この運賃、夢ではありません」「これを実現できる政治家がいるとすれば、私しかいない」と服部市長は選挙で公約しました。

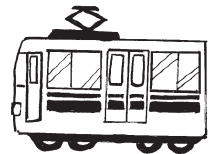
当選後、議会で「相手もあり難しい問題」「この4年間に目途をつけていきたい」（6月議会での答弁）と、早期の実現が難しい意向を示すなどトーンダウンしています。しかし、選挙公約は有権者に対する約束です。市長は約束を果たす責任があります。

営業利益5期連続で50億円台に

東葉高速鉄道の2016年度決算によると、輸送人員は開業以来最高の5,394万人、1日平均14万9千人です。運輸収入でも過去最高の152億7千5百万円となっています。営業利益は56億6千5百万円と、5期連続で50億円台を達成しています。

鉄道建設時の長期債務の支払利息が、金利の低下と元金償還の進展により、26億5千3百万円にとどまったことから、経常利益29億8千8百万円、当期純利益は、21億9千4百万円を計上しています。2017年度予算でも当期純利益21億円を見込んでいます。

長期債務の返済は、当初計画の年50億円をはるかに上回る返済を行っています。2010年に約3,044億円の残高に対し、2016年には2,650億円とこの6年間で394億円（年平均66億円）減らしています。



市は株主として強力に運賃値下げを

運賃を10%値下げすると単純計算で運輸収入は15億円マイナスとなります。それでも純利益は6億円を確保でき、さらに繰り上げ償還額を60億円程度にとどめれば、12億円の純利益を確保できます。運賃値下げによって輸送人員が2%伸びれば、約2億8千万円増収・増益となり、純利益は約15億円確保できます。

八千代市はこれまで東葉高速鉄道に130億円を超える出資金・利子補給などを行ってきました。運賃値下げは、市民への利益還元というだけではなく、公共的目的にも沿うものです。株主としての発言権を行使し運賃値下げを迫るべきです。